

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171200019
法人名	社会福祉法人 野菊の里
事業所名	グループホーム のぎく
訪問調査日	平成19年11月1日
評価確定日	平成20年1月8日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200019
法人名	社会福祉法人 野菊の里
事業所名	グループホーム のぎく
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1949番地 (電話)0952-52-4973

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成 19 年 10 月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 1階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950	円

(4) 利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院、光風会病院、毛利歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を田園に囲まれた広大な敷地に元特別養護老人ホームとして建築されたものを移転を機に一部を改築して利用している。建物周囲は季節の花がバランス良く植えられ時折家族の差入れの花も飾られ入居者を始め、来訪者の気持ちを和らげてくれる共有空間である。花壇の傍には菜園もあり季節の野菜が植えられ収穫になると食卓に上り食欲増進にもつながっている。鉄筋コンクリート造りであるが中に入ると木のぬくもりがあり明るく威圧感はなく感じられない。職員も安全を念頭に入居者中心のケアに努めている。穏やかな時の流れが感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の共有から入居者中心のケアに努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自ら評価を行い外部も含めた評価を実施する意義は理解している。改善点があれば即、対応しようとする前向きな考えである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	議題が決められ、時には各種行事等に合わせて開催されているが運営推進会議の更なる充実を図るためにも評価の取り組みや評価後の改善に向けた取り組みについてもモニター役になってもらうなど会議の効果的な開催を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関先に意見箱の設置はしているが活用実態はほとんどなく、なるべく口頭で日常会話の中から聞き出せるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「子ども110番」を引受けその話合いに出席したり、地区祭り、文化祭出品見学、消防団の協力、地区役員への広報紙の配布等地域に密着した取り組みを行っている。今後は地域との双方向関係の充実も期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関先に大文字で誰もが見ても解り易い内容の理念がかかげられているが地域密着型としての理念とは言い難い。	○	地域密着としての責務は十分理解出来ているので、これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となるよう期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の安全を念頭に置きながら明るく、楽しく、なごやかにの理念を共有し日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「子ども110番」の引受け、各種行事(祭り、文化祭出品、見学)消防団協力体制等地域活動に参加し地域の人々との交流に前進中である。		事業所からの地域交流に対する積極的な働きかけや取り組みがなされているが、今後は更なる取り組みとして事業所と地域の人々が支えあう双方向関係について、その充実を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行い評価の意義は理解している。評価をケアに対する振り返りの良い機会と取らえ改善点があればすぐ対処しようとする前向きな考えである。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種行事に合わせて会議を開催するなど状況把握に努めてもらっている。	○	事業所の取り組み内容や評価結果、評価で明らかになった課題等について話し合う貴重な機会となるよう、運営推進会議の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	最近パンフレットを刷新し市町行政の窓口にも配布したり福祉行政の最新情報の提供を受けたりしてホームの理解と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回グループホームも含めた関連福祉施設の広報誌を送付している。個々には変化が認められた時はその都度電話にて連絡し、家族の面会時はいい機会ととらえ要望や気づきを伺いながら日常の暮らし振り等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置があるが十分な活用には至っておらず、家族の面会時に日常の会話から気軽に話かけられる雰囲気作りに心掛けている。意見、不満等は最後迄責任を持って解決する方針と共に職員の接遇教育もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	交代時は入居者、家族にはその都度紹介しなるべく早いうちに顔馴染みの関係が築ける様な支援を行っている。働きやすい環境、それが入居者に対するサービスの質の向上に連立するものと心掛けられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は全職員が片寄らないで出席出来る様な体制作りがなされ質の向上に努めている。出来るだけ条件を満たすことが離職を防ぎ職員を育てる取り組みである事は認識している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「高齢者グループホーム事業所連絡会」に出席したり外部研修会及び、近隣のホーム行事に参加等で交流を持ち情報収集の場となっている。良い所を吸収し入居者のサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者及び、家族の見学、一日体験も可能である。それでも足りない時は何回でも体験出来、本人、家族が安心し納得した上で入居出来る様な支援の仕方である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事にも一緒に行動し共に喜び苦しみ等を知った時は共に分かち合う姿勢である。いつも人生の先輩としてケアに当たっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理やりにやろうとしても難しい。気分が乗った時にやれば良いと言葉や表情から把握に努め何事も入居者中心のケアを行っている。一人だけの希望でも要望に沿うよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望、意見を聞きその結果医療面も考慮し看護師も含めた職員の受持ち制で具体的な計画になっている。計画はスタッフ会で報告し全職員が理解している、家族へも説明がなされ署名、捺印もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がない継続の場合は6ヶ月毎に、変化に応じてはその都度見直しがなされている。個人ファイルに解り易い記号で評価の記載もなされている。	○	短期目標の評価の点から3ヶ月毎の見直しも望まれる。今後の取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の依頼を受け医療機関への通院介助等を行っている。看護師の配置もあり医療面での対応に職員を始め入居者、家族への安心にも繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医があり適切な医療を受けられる様に支援している。健康診断を兼ね定期受診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になると原則的に医療への切り替えを入居時に説明し理解して頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いを行っている。排泄、入浴も一対一のケアを行い、個人情報にも配慮を行い記録方法もプライバシーに配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制しない一人ひとりのペースを大切にし入居者中心のケアで希望に沿った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		同じテーブルで一緒に食事を取りながらさりげない声かけや、介助がなされている。箸、茶碗は個々の物でその食材に適した陶器の食器で色彩も良く食欲をそそる。入居者の力量に応じた調理、準備、片付け等の出番もある。
	23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		2班に分けて隔日毎に夕食後夜間の一对一の入浴がなされている。これ迄の生活習慣の継続を大切にしながら安眠効果にも繋がる支援である。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		日常生活の中から自然に役割分担が出来力量に応じて家事全般の軽作業、菜園作り、クラブ活動導入等で全入居者の個々の張合い、楽しみごとの一助になっている。
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		外気浴や、週1回は併設のデイサービスに参加している。また日々の買物、季節毎の行事には手作り弁当を持ち行楽へ出かけるなど、楽しい外出支援が行われている。
(4)安心と安全を支える支援					
	26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		鍵をかける弊害は全職員理解し、鍵をかけないケアを基本としている。玄関にチャイムを取り付け徘徊は勿論訪問者の確認に役立っている。家庭的雰囲気や威圧感を感じられない。
	27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		ホーム独自で年3回昼夜を想定しての避難訓練を実施している。広域消防署との訓練は勿論、併設施設との合同避難訓練時は地域の人々や消防団の協力も得て行われている。マニュアルもある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師の配置があり献立が立てられている。併設施設の管理栄養士にもいつでも相談出来る。水分も食事以外に1リットルを目安として補給され栄養バランス共々考慮している。摂取量もきちんと記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはホームでの栽培や、家族の差入れの花等が飾られ気持ちを和ませる配慮がある。要所要所にはソファが置かれ気の合った仲間とおしゃべりや休憩の場ともなっている。狭いながらも畳の部屋も準備され思い思いにくつろぐことができる。浴室、トイレも違和感はなく傍に洗濯板と石鹸がさりげなく置かれて小物洗いに利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が泊まるにも十分の広さの居室の確保がある。備え付けのベッドであるがそれを中心に使い慣れた物品がそれぞれ持ち込まれ思い思いの位置に置かれ入居者の個性が発揮されている。又、家族の趣味の作品も壁に飾られ関係作りにもなっている。		